

技術評価報告書の構成（案）

はじめに

産業構造審議会評価ワーキンググループ委員名簿

評価検討会委員名簿

技術評価に係る省内関係者

審議経過

第1章 事業の概要

1. 本事業の政策的位置付け/背景
2. 当省（国）が実施することの必要性
3. 国内外の類似・競合する研究開発等の状況
4. 各事業の内容
 - A. 高効率な石油精製技術の基礎となる石油の構造分析・反応解析等に係る研究開発事業
 - B. 高効率な石油精製技術に係る研究開発支援事業
5. 事業アウトカム達成に至るまでのロードマップ
6. 費用対効果

第2章 評価

1. 当省（国）が実施することの必要性
2. 研究開発内容及び事業アウトプットの妥当性
3. 研究開発の実施・マネジメント体制等の妥当性
4. 事業アウトカムの妥当性
5. 事業アウトカム達成に至るまでのロードマップの妥当性
6. 費用対効果の妥当性
7. 総合評価
8. 今後の研究開発の方向等に関する提言
9. 各研究開発項目の評価

第3章 評点法による評点結果

第4章 評価ワーキンググループの所見

「第2章 評価」の取りまとめ方

- 評価項目毎に以下のように評価コメントを取りまとめる。
- 各委員のコメントを取りまとめて、評価検討会の総意としての評価コメントを枠内に記載する。
- 各委員の評価コメントは（A委員）などと匿名により全て列記する。

（例） 7. 総合評価

○○○○○の観点から積極的に関与してくべき分野である。さらに○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○である。
他方、○○○○○○○○○○からすると、実用化に向け○○の点について検討する必要がある、また、○○の課題を乗り越えるために、○○する必要がある。

【肯定的意見】

A委員：○○○○と考える。

B委員：○○○の観点から○○○である。

C委員：

．．．

【問題点・改善すべき点】

A委員：○○○○の点については今後さらに検討すべき。

B委員：○○の状況からすると更に○○を精査して見直すべき。

C委員：

．．．

「第3章 評点法による評点結果」の取りまとめ方

- 各委員の評点は匿名にして掲載する。
- 各委員の評点を、A = 3, B = 2, C = 1, D = 0 点に換算し、平均値を算出。
- 評点は評価コメントを補完する資料とし、評価の全体的な傾向を把握することを目的とする。

(評点の取りまとめ例)

